

日本共産党埼玉県議団NEWS

2011年6月28日日本共産党埼玉県議団 048-824-3413

教科書採択問題

議会から教育委員会への 圧力相次ぐ

中学校教科書採択を8月末に控えて、県議会6月定例会では検定教科書を具体的に取り上げて、教育委員会に不採択を迫る場面が相次いでいます。

自民党の小島信昭県議は、6月24日の本会議一般質問で「T社の教科書は」と具体的に教科書名もあげて、「本来検定合格となるはずもないものがあると思うが」と知事の見解を問い、「このような教科書は採択するはずがないと思うが」と県教育長に対し迫りました。

これに対して、上田清司知事は、「小島議員におかれましてはT社とか何社中何社というような表現ではなく、はっきり言われてもよかったのではないかと思います」などと、答弁しました。

また、同日民主党吉田芳朝県議は同じく具体的に教科書を取り上げて「我が国の歴史に対する愛情を深め、国民として自覚を育て広い視野に立って考えさせられるものになっているか。」などと県教育長に見解を迫りました。

また、6月28日の一般質問では刷新の会の舟橋一浩県議が同様の質問を行いました。

自民党紹介の請願も提出に

6月定例会には自民党紹介の「教育基本法・学習指導要領の目標を達成するため、最も適した歴史・公民教科書の採択を求める請願」が提出されています。

これは、教育委員会に対して教育基本法の「改正」内容や学習指導要領の改訂を十分理解し、「適切」な歴史・公民教科書採択を行うよう議会として求めることを要請しています。請願は、7月4日の文教常任委員会で審議、採択された上、8日の本会議で討論、採択が行われます。

自由社・育鵬社の教科書とは

今年3月30日に検定合格した「新しい歴史教科書を作る会」が主導した自由社と同会から分裂した「日本教育再生機構」が主導した育鵬社（扶桑社の子会社）の教科書。「この戦争は『自存自衛』のための戦争であると宣言した」と共通の文言で先の大戦を日本による侵略戦争ではなく、自衛戦争であったように描こうとしています。

これらの教科書は、県内各地の展示場で7月初旬まで見ることができます。（詳しくは県教育委員会HP）